



ガリバーを推
測する夢



涼一

ガリバーを推測する夢

人間はでかい。でも小さい。

こんな夢を見た。しゃもじを鳥居の下で上に上げたら、天たかくふあふあとあがっていった。

気がついたらでかい若者が歩いている商店街に来てしまった。

まだ風船のように僕は小さい。それより小さいかもしれない。ピンポン球ぐらいになってる。ある建物に入った。

するとでかくなってる。こどもが、わんわんといっている。

なんだ？

建物をうろうろすると、教会の建物に来た。赤いじゅうたんがしいてある。ほんものの教会ではないようだ。キリスト系である。そこで、めをまんまるにした、でかいおばさんが、近づいてきたので逃げた。タクトのような棒をもって「殺すぞ」といったら「殺すわよ。」とタクトのような棒を腹につけられた。

そこにでかいバイクの、でかい暴走族が来て「乗りな。」といった。でかいくせにタバコもでかい。

そしてのったら、夢は終わった。暴走族に助けてもらわなければ死んでいた。

ぼくたちは、小さい頃ぜんぶでかいとおもったことはないだろうか。それがふつうだったから、大きくなってもその大きさだろうか。

じぶんは、でかいくせに、いろいろわがままいっている。このごろでかいので、しゃべるのも嫌になった。

でも反対に小さいかもしれない。この大宇宙という、大きな生物の中にいるかもしれないのだ。そこで戦争したり、けんかしたりするな。普通に感謝して生活すればいいのだ。アー、でも怖い夢でした。

何が怖かったって、ばばあが本気だったこと。

おしまい